

モデル事業名	協働の力でふるさと回帰を実現する事業
活動団体名	特定非営利活動法人 白河ふるさと回帰支援センター、特定非営利活動法人 しらかわ市民活動支援会
ホームページ	http://furusatokaiki.com/ (活動団体のHPのアドレス)
所属／担当者名	NPO法人白河ふるさと回帰支援センター/事務局長：渡辺 史郎
連絡先	電話：0248-24-1099、Eメール： info@furusatokaiki.com
活動地域	福島県の県南地区；白河市、西郷村、泉崎村、矢吹町、中島村、棚倉町、埴町、矢祭町、鮫川村
<p>● 活動地域の概要 県南地区の人口動態調査による数字（すべてH.16年～H.21年の増減率）</p> <p>①地区全体の人口は、H.16年からH.21年までの5年間で、▲3,412人（▲2.1%）の減少</p> <p>②そのうち、0歳～14歳の人口減少率▲9.8%、15～64歳の生産年齢人口減少率▲3.3%</p> <p>③一方、65歳以上の老年者人口増加率6.6%、75歳以上の人口増加率22.9%の高率</p> <p>④うち、東白川郡の人口増減は5年間で、▲2,313人（▲6.0%）という高率</p> <p>⑤うち、東白川郡の0歳～14歳の人口減少率▲14.2%、15～64歳の生産年齢人口減少率▲7.0%</p> <p>農村部においては、少子高齢化の傾向が著しく、農林業の担い手が不足している。したがって、耕作放棄地、遊休農地、土地家屋所有者の不在化、山林の荒廃化、農林業後継者不足、といった問題を提起している。また、近年においては地域コミュニティの希薄化・崩壊化の傾向も顕著に見られる。中心市街地においても空き店舗化が著しい。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【位置図】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【廃屋になっている民家】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【耕作放棄されて荒廃した田】</p> </div> </div>	
<p>● 活動地域の課題</p> <p>福島県の県南地区は、関東に近く東北新幹線や東北自動車道、福島空港などの交通インフラが整備されて便利で、移住地として高い人気にも関わらず、都会からの交流居住や移住が思ったほど進んでいない。また、辺鄙な農村部では、著しい人口減少や高齢化の課題も抱え、その改善も進んでいない。それらの地域では、遊休耕作地や手入れされず荒れ放題になった山林も目立ち、国土の荒廃という課題をも示している。さらには、近年地域コミュニティも崩壊傾向にあり、共に支えあう関係が希薄になり、田舎暮らしの良さが次第に失われつつある。当然、優秀な人材が都市部や都会に流出していて、まちづくりや地域活性化がままならない状況にあり、抜本的な対策が求められている。</p>	
<p>● 活動の内容</p> <p>・平成20年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プランの検討、ツアー訪問地・施設の調査 白河周辺の観光資源・施設などの調査、パンフレットの収集を行い、ツアーコースの選定を行った。 ○「田舎暮らし体験交流ツアー」の開催、 日程：2月10日～11日＜1泊2日＞ 6名参加 白河周辺の名所旧跡・分譲地など案内、「だるま市」の見学。温泉宿泊・交流懇談会にて手作り郷土料理。 ○「田舎暮らしコンシェルジュ養成講座」の開催、 2月28日・3月7日・3月14日＜各13時～16時＞ 都会から移住してきた方々に田舎暮らしの情報・知識・技能を提供したり、いろいろな相談にのれる人達の養成として本講座を実施した。 受講者18名、14名の方々に認定証を授与した。 <p>・平成21年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「白河ふるさと暮らしセミナー」東京、「第5回・ふるさと回帰フェア」東京、にてツアー開催のPR実施。 ○「田舎暮らし体験交流ツアー」の開催、 日程：9月26日～27日＜1泊2日＞ 13名参加 東京駅集合・バスにて送迎、都市農村交流センターにて手打ちそば作り体験・交流懇親会を実施。 今回テレビ東京・ワールドビジネスサテライトの特別番組として2日間密着取材を受け10月1日に放映。 ○「田舎暮らしコンシェルジュ養成講座」の開催、 1月23日・1月30日・2月6日・2月13日＜4日間＞ 前回より1日間（3時間）多くして講座内容の追加及び内容の充実を図ると共に対象範囲を拡大して実施。 ○リタイアメント・コミュニティ・ビジネスのモデル企画提案 國學院大学の田原裕子教授（経済学部）講師の「引退移動の動向とその展望」講演会を2月8日に開催の予定。 	

● 活動の成果

・平成20年度

- 「田舎暮らし体験交流ツアー」の参加者の皆様からは当地方の良さを実感してもらい、ふるさと回帰運動の意義やビジョンにも共感を頂き、参加者の中から1組の家族の方には白河市へ移住して頂けた。
- 「田舎暮らしコンシェルジュ養成講座」の開催においては、地域に埋もれていた人材の掘り起こしにつながり、志を持ちながら活動の場がなかった人達の登録でき移住・二地域居住の受入支援体制が整備された。
- 上記のイベント等の開催、パンフレット及びチラシ等での広報活動、ホームページでの情報発信など協働での活動が認められ、8月に福島県県南地方振興局から県南地方定住・二地域居住相談所「ラクラスしらかわ」の開設、当センターでの運営・委託を受けることとなった。県が県内に設置する相談所としては初めてとなる。
- 福島県知事より「福島ふるさと暮らし案内人」として当センターが認証を受ける。8月25日認証交付式あり。
- 人口減・少子高齢化、コミュニティの崩壊・地域力の減衰を食い止める事が出来るのではないかの感触を得た。



体験交流ツアー



コンシェルジュ養成講座



相談所&事務所



案内人・認証交付式

・平成21年度

- 県南地方定住・二地域居住相談所「ラクラスしらかわ」の開設、8月24日に開所式・運営を開始する。
- 8月30日、東京・銀座ふるさと回帰支援センターにて福島県と協働で「白河ふるさと暮らしセミナー」を開催。
- 9月22・23日、東京・早稲田大学「第5回・ふるさと回帰フェア」福島県ブースにてツアー開催のPR実施。
- 「田舎暮らし体験交流ツアー」の開催、9月26日～27日<1泊2日>東京駅バス送迎、13名参加
テレビ東京・ワールドビジネスサテライト（ニュース番組）の特別番組として10月1日に10分間放映。
- 「田舎暮らしコンシェルジュ養成講座」の開催、1月23日・1月30日・2月6日・2月13日<4日間>
現在、養成講座の開講中：前回より1日間（3時間）多くし内容の追加・充実を図る。
- リタイアメント・コミュニティ・ビジネスのモデル企画提案：講演会を2月8日に開催の予定。



相談所・開所式



セミナー開催



ふるさと回帰フェア



体験交流ツアー

● 今後の課題及び展望

・課題

- 首都圏への広報活動のあり方：
イベントの開催及び参画、パンフレット配布・設置、ホームページの更新など広報活動にはまだ改善が必要。
- 移住相談窓口で受けた希望条件への取り組み対応：
・古民家での半年～1年の体験移住支援、・就職活動及び就農などの支援&情報提供、・空き家情報提供など。
- 田舎暮らしコンシェルジュの方々同士のネットワーク作り：
それぞれ地区で独立して活動するのではなく、情報やノウハウの共有をし協働する事で何倍もの相乗効果を得る。

・展望

- 引き続き「田舎暮らし体験交流ツアー」「ふるさと暮らしセミナー」などの開催、各種団体が開催するイベントへの積極参画など、首都圏等への積極的な広報活動の実施。
- 移住・二地域居住希望者からの問い合わせ事項、相談事項などの取りまとめ、対応支援体制の整備。
・お試し体験移住施設の検討、・空き農地&空き家などの情報収集及び情報提供
- 地域住民どうしのネットワークや協働についての道筋は見えてきたが、産・学・官との協働についてはまだ不十分である。新たなコミュニティを創生して地域力を底上げするためにも、もっと深く広い協働が求められていると考えられる。このような点について今後さらに取り組んでいきたい。

